

2023 年 12 月期決算説明会 質疑応答

(回答者：西森社長)

Q1. 海外 IT の利益が下期にだいぶ回復したが、インドの影響が大きかったとみてよいか？

A1. インドの影響が大きい。

Q2. 24 年度の国内 IT の業績が微増の計画だが、需要面の問題からなのか、それともリソース面での制約があるからなのか？国内 IT の見通しについて詳しく教えてほしい。

A2. まずは、連結除外した CAC マルハニチロ分の影響がある。23 年度に約 5 億円の売上があった。それを除けば市場と同等での成長とみている。

市場の IT 投資状況は、顧客の話なども含めて考えると受注環境は悪くないと思っている。リソースの制約は常にあるが徐々に対応している。

Q3. 25 年度の目標変更の要因として新規事業の収益化の遅延を挙げているが、遅延している背景は何か？

A3. 新規事業を立ち上げてマネタイズするには時間がかかる。23 年度に立ち上げた新規事業はアーリーステージであり、スタートアップ企業と同じように、いつ収益化するのかを見定めていく必要がある。マネタイズできるかグロースできるか、事業ごとに判断していくが、想定以上に時間が必要だとわかってきた。一方で、新規事業には恐れずに投資を行っていききたい。

Q4. 24 年度売上予想について、受注残高からすればもっと増収になっていいのではないかと？

A4. 現時点で見込めるものを含めている。受注残高には 24 年度だけでなく、25 年度以降、複数年にわたるものもあり、その点も勘案して予想している。必要に応じて業績予想の修正を行っていききたいと思っている。

Q5. 24 年度の利益予想について。賃料削減、海外子会社削減効果からすれば、もっと増益になるはずでは？

A5. 削減効果は成長投資に回すので減益要因になる。結果としてはイーブン。

Q6. M&A の進捗が遅く見える。余計な待機資金を持つ必要はないし、借入金という有効な選択肢について活用しない理由は何か？

A6. 余計な待機資金を持つ必要がないというのはその通り。ただ、M&A 内容によっては、例えば新規事業など、リスクを伴うものがある。それには現預金を使っていく。ある程度、

成就が見込める企業の M&A は借入金を活用して、資本コストを下げるようにしていきたい。

- Q7. 株価資本コスト経営について、現状のバランスシートの分析がなされていないように見受けられる。適正な自己資本、借入金について答えてほしい。投資できていない資金を持ち、競合他社よりも高い自己資本比率をなぜ持つべきか根拠を教えてほしい。
- A7. 適正な自己資本としては安全性の観点からリスク見合いで調整している。自己資本比率は業界平均である 50%あたりを目指している。高くする必要はないと思っているが、最低限の安全性を確保することは必要と考えている。

以上